

看護学科

講義要綱

科目	教育学	単位	1	開講時期	2年前期
授業形態	講義	時間	15	必修区分	必修
担当者	小田 三成				
授業目的	教育および教育学の基礎的知識（概念）を学び、看護学との共通性を理解する。				
到達目標	人間の成長に関わる教育の機能について理解を深め、看護における教育的側面を理解する。 学ぶことの必要性・教育方法・指導方法・評価方法を学ぶ。				
授業概要	これまでに受けてきた教育あるいは行ってきた教育に関する経験から出発して、各種教材を通したグループワークを行う。グループワークによって教育や学習の価値や難しさについて実践的に考えていく。				
授業方法					
授業展開	回数	内容			準備等
	1	教育とはなにか			
	2	教育の歴史～動物の子育てから学校の登場まで～			
	3	教育評価について～目標分類学を中心として～			
	4	教育評価の実際～具体的な手法を用いて～			
	5	教育方法の基礎			
	6	教育方法について			
	7	教育における現代的な課題～ジェンダー、ICT、防災～			
8	試験				
履修条件	特になし				
評価方法	GWへの参加、毎回のリアクションペーパーの内容、最終試験による				
テキスト	特に指定しない				
参考書	特に指定しない				
備考	必要に応じて、適宜・適時、資料を配布します。				

看護学科

講義要綱

科目	英会話	単位	1	開講時期	2年前期
授業形態	講義・演習	時間	30	必修区分	
担当者	Cunningham Bruce William				
授業目的	日常英会話の場面・文化・生活に使われる英語を理解する。				
到達目標	看護場面で活用できる英会話を体験的に学ぶ。 良い人間関係を築くための会話のコツを学ぶ。				
授業概要	看護場面で、実際に英語で話すことができるように、積極的かつフレンドリーに話すよう心がけてください。				
授業方法					
授業展開	内容		準備等		
	<p>日本語的な発想ではなく、国際共通語としての英語の発想による会話練習</p> <p>日常英会話の場面・文化・生活に使われる英語 (あいづちの打ち方、上手な謝り方、口調を和らげる表現など) 会話の練習</p>				
履修条件					
評価方法					
テキスト	Speaking of Nursing Peter Vincent Alan Meadows 看護系学生のための英語コミュニケーション			南雲堂	
参考書					
備考	初回 講義時に太マジックと名札を使用します。準備してください。				

看護学科

講義要綱

科目	心理学	単位数	1	開講時期	2年前期
授業形態	講義	時間	30	必修区分	必修
担当者	田辺 肇				
授業目的	人の体験と行動の発生と発達のプロセス、法則、背景メカニズムや適応的意義など、心理学の基本的な知識の習得を目的とする。				
到達目標	こころのケアや精神保健の領域に限らず、人の体験と行動がどのような過程を経て生じるのか、あるいはその過程にはどのような傾向や法則があるのか、について知ることは、看護実践を進める上で不可欠の知識といえる。				
授業概要	毎回レスポンスシートの提出を求める。それに応じて授業を展開する。				
授業方法	講義				
授業展開	回数	内容	準備等		
	1	心理学における人間理解①心理学とは（心理現象と心理メカニズム、意識と行動）			
	2	感覚と知覚			
	3	記憶・自己			
	4	心理学における人間理解②研究法（共感的理解と客観的理解、理論とモデル、科学とエビデンス、相関と因果、調査と実験）			
	5	思考・言語・知能			
	6	学習			
	7	感情と動機づけ・報酬系			
	8	性格とパーソナリティ			
	9	社会と集団			
	10	発達			
	11	心理臨床①（ストレス・アセスメント・精神障害）			
	12	心理臨床②（心理療法・危機介入・家族・コミュニティ）			
	13	医療・看護と心理			
	14	心理学における人間理解③（心理学史：心のモデル）			
15	試験・まとめ				
履修条件	授業中の発言を含め、好奇心をもって積極的に授業に参加して欲しい。				
評価方法	終了試験の成績により評価する				
テキスト	系統看護学講座 基礎分野 心理学		山村豊ら（著）	医学書院	
参考書	新体系看護学全書 専門分野Ⅱ精神看護学①精神看護学概論精神保健 新体系看護学全書 基礎科目 心理学		メヂカルフレンド社 はじめて出会う心理学〔第3版〕 長谷川寿一ら（著）	メヂカルフレンド社 有斐閣	
備考					

看護学科

講義要綱

科目	生命倫理学	単位	1	開講時期	2年前期
授業形態	講義	時間	30	必修区分	必修
担当者	高嶋 佳代				
授業目的	倫理的問題に対応する上での基礎的な生命倫理の考え方を身につける。生命に関わる多様な倫理的課題について、掘り下げて考えることができる。グループワークを通して自分と異なる考えに耳を傾け、自分の考えを深める事ができる。				
到達目標	生命に関わる倫理的な課題に対して、どのように向き合うことが必要かを、授業の内容を踏まえた上で自分の考えを示すことができる。				
授業概要	講義に加えて、映像資料や事例を用いたグループワークを、連日複数回行います。				
授業方法					
授業展開	回数	内容			準備等
	1	イントロダクション			
	2	生命倫理概論			
	3	価値について			
	4				
	5	意思を尊重することについて			
	6	人生の最終段階に関わる倫理			
	7				
	8				
	9	生殖に関わる倫理			
	10				
	11				
	12				
	13	先端医療の倫理			
	14				
15	筆記試験				
履修条件	生命倫理に関する問題を、講義やグループワークを通じて、皆で一緒に考えながら授業を進めていく予定です。それぞれのテーマについて、自分や他者の価値観について意識し、倫理的問題について自分の意見に関する根拠や理由を十分に考え、深めることを心がけてください。				
評価方法	筆記試験に加え、グループワークや授業への参加意欲や態度なども合わせて総合的に評価します。				
テキスト	テキストは特に使用しませんが、講義前までに参考文献をよく読んでおいてください。				
参考書	命は誰のものか（増補改訂版）香川千晶 ディスカヴァー携書（2021年） 安楽死・尊厳死の現在-最終段階の医療と自己決定 松田純 中公新書（2018年）				
備考					

看護学科

講義要綱

科目	社会学	単位数	1	開講時期	2年前期
授業形態	講義	時間	30	必修区分	必修
担当者	白井千晶				
授業目的	患者や医療者・医療がおかれた社会的背景を広い見地から理解するために、社会学を学ぶ。				
到達目標	現代日本社会の仕組み、構造、歴史を理解する。家族、ジェンダー、セクシュアリティ、仕事、死、都市、教育など社会の様々な事象を社会的に捉えることができる。疑問点を発見し、問いを立て、能動的に分析する力を身につける。				
授業概要	教科書を事前に読んで内容を理解して講義にのぞむ。講義で解説を受けたあと、問いに答え、ディスカッションを行う。他者の知識や意見を聞きながら問いへの答えをまとめる。				
授業方法					
授業展開	回数	内容			準備等
	1	『家族看護学』2章D 現代の家族とその課題			
	2	『家族看護学』1章A 家族看護の特徴と理念、2章C 家族機能			
	3	『家族看護学』1章B 家族看護の実践の場面、2章B 家族構造			
	4	『家族看護学』5章D 先天奇形をもつ児の家族看護、E 精神病			
	5	『家族看護学』5章F 高齢の患者の家族看護			
	6	『家族看護学』5章G 周産期に関する家族看護			
	7	『社会学』6章 健康・病気の社会格差			
	8	『社会学』7章 「働き方」「働かせ方」と健康・病気			
	9	『社会学』8章 保健医療における行為・関係・組織・制度			
	10	『社会学』9章 患者-医療者関係とコミュニケーション、10章			
	11	『社会学』11章 性・ジェンダー・家族と保健医療			
	12	『社会学』12章 地域社会と保健医療			
	13	子どもの福祉と社会的養護			
	14	危機的妊娠と女性の福祉			
15	婚姻と家族の多様性				
履修条件					
評価方法	毎回の課題への取り組み、議論への参加、テスト				
テキスト	三隅一人，高野和良編『ジレンマの社会学』ミネルヴァ書房				
参考書	テーマごとに授業中に紹介する				
備考					